



第10回全国菜の花サミットin田原

私たちは将来を担う子どもたちに、菜の花プロジェクトを通して
農業の大切さを伝えるとともに、食・エネルギーの持続的な確保を図り
地域経済を支える資源循環型社会を創造します



シンポジウムにて、菜の花エコプロジェクト総合学習の実践報告をした田原東部小学校5年生



平成22年2月6日(土)
雪景色 田原市内



豊橋鉄道渥美線
「なのはな号」



三河田原駅



田原市総合体育館



田原文化会館図書館側入口に
設置された菜の花プランター



中央図書館側ロータリー



開会セレモニー

開会セレモニー

田原市総合体育館アリーナ



主催者代表あいさつ
第10回全国菜の花サミット実行委員会会長
鈴木和義



歓迎のことば
田原市長 鈴木克幸



全国組織代表あいさつ
特定非営利活動法人菜の花プロジェクト
ネットワーク代表 藤井絢子



来賓祝辞
環境副大臣 田島一成様



来賓祝辞
衆議院議員 森本和義様



来賓祝辞
愛知県知事 神田真秋様
(代読 愛知県副知事 稲垣隆司様)



開会セレモニー 司会 別所源太郎





基調講演

菜の花エコプロジェクトの展望
講師 都市ジャーナリスト 森野美徳氏



都市ジャーナリスト 森野美徳氏





事例報告

報告1 菜の花エコプロジェクト総合学習実践報告 田原東部小学校5年生



報告2 菜の花プロジェクト活動報告 特定非営利活動法人 豊田・加茂菜の花プロジェクト 会長 梅谷勝利氏



報告3 バイオディーゼル燃料精製の取組 太田油脂株式会社 取締役 本社営業部部长 小森強志氏



報告4 菜種の適正品種と栽培技術の確立研究報告 愛知県農業総合試験場 園芸野菜グループ 主任 西川剛氏





パネルディスカッション

テーマ まごこ 孫・子に残そう「食・エネルギー」生産の場を - 菜の花エコプロジェクトの展望と課題 -



全国有数の農業地域である田原市を舞台に、地球温暖化の進む今日、環境、食、エネルギーに焦点をあて議論を行いました。また、平成21年7月の全国菜の花サミット東京宣言を受け、制度やしきみについて討議しました。



コーディネーター

特定非営利活動法人菜の花プロジェクトネットワーク代表 藤井絢子氏
特定非営利活動法人菜の花プロジェクトネットワーク事務局長 山田実氏

コメンテーター

都市ジャーナリスト 森野美徳氏

パネリスト

特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワーク理事長 安田和司氏
太田油脂株式会社取締役本社営業部長 小森強志氏
愛知県農業経営士協会東三河支部田原分会分会長 小久保昌彦氏



コーディネーター
藤井絢子氏、山田実氏



コメンテーター
森野美徳氏



パネリスト
安田和司氏、小森強志氏、小久保昌彦氏



サミット宣言



次世代まで引き継ぐことのできる 豊かで活力のある地域社会、資源循環型社会の形成 をめざして、サミット宣言を行いました。

「菜の花プロジェクト」は、地球温暖化対策の一つでもあり、耕作放棄地対策での菜の花栽培、観光・景観資源としての活用、搾油、廃食用油のバイオディーゼル燃料化など様々な事業が全国で展開されています。

効率的な栽培方法や地域の特性にあった菜種の品種、収穫や乾燥作業などの機械化、搾油所の確保、国産菜種の価格動向、バイオディーゼル燃料の品質の確保、事業の経済性など様々な課題を克服しなければなりません。



特定非営利活動法人 田原菜の花
エコネットワーク事務局長 中村美千代



パネル展示、特産品販売

パネル展示 日時・場所 2月6日(土) 11:00~17:30 田原市総合体育館アリーナ

新エネ百選



「新エネ百選」とは、地域の特性などを考慮しつつ、全国の新エネルギー等利用の取り組みを評価し、経済産業省とNEDOが47都道府県からもれなく、先進的、先導的な事例を選定したものです。

愛知県下では、2か所が選定されており、田原市における「たはらエコ・ガーデンシティ構想」もその一つです。

風力発電、太陽光発電、廃食用油燃料化など、多様な新エネルギーの導入を進めている田原市の取り組みについて、情報発信を行いました。



愛知県内活動団体

愛知県内及び田原市内で菜の花プロジェクトに取り組む27団体の実践活動をパネルにまとめて紹介しました。



特産品販売 日時・場所 2月6日(土) 10:00~18:00 田原市総合体育館ロビー

愛知みなみ農業協同組合



田原産農作物の販売を行いました。

特定非営利活動法人 菜の花プロジェクトネットワーク



菜の花エコの関連図書の販売を行いました。

特定非営利活動法人 田原菜の花エコネットワーク



田原産菜種油の販売を行いました。

特定非営利活動法人 あいち菜の花活用推進協議会



愛知県産菜種油の販売を行いました。



ブース展示

ブース展示 日時・場所 2月6日(土) 10:00~18:00 2月7日(日) 10:30~15:00 田原文化会館アトリウム

田原市



田原市での菜の花エコの取り組みを紹介しました。

特定非営利活動法人 田原菜の花エコネットワーク



環境学習に使用する
手作りの菜種選別機を
展示しました。

愛知県立渥美農業高等学校



環境学習に使用する
小型搾油機・廃食用油燃料化装置
を展示しました。

トヨハシ種苗株式会社 有限会社福井種苗店 株式会社中神種苗店(合同出展)



市内の種苗店が合同で菜種の品種
について紹介しました。

有限会社いわさき看板店



太陽光発電を利用した
「LED菜の花」を展示しました。



ブース展示 日時・場所 2月6日(土) 10:00~18:00 北側ロータリー

田原市(財政課・営農支援センター) 白井農機株式会社



バイオディーゼル燃料で動くトラクターを
展示しました。

翔運輸株式会社



バイオディーゼル燃料で動く大型トラックを
展示しました。



作品展

菜の花絵画展

日時・場所 2月2日(火)~14日(日) 田原文化会館ホワイエ 作品数208点
(蔵王幼稚園71点・第一保育園38点・北部保育園26点・赤羽根保育園24点・福江保育園49点)



菜の花押し花展

日時・場所 2月6日(土)・7日(日) 田原文化会館ギャラリー
作品数40点(田原市文化協会なばな押花・転写アート部会)



菜の花生花展

日時・場所 2月6日(土)・7日(日) 田原文化会館ギャラリー
作品数43点(田原市文化協会華道部)



地球温暖化防止啓発ポスター入賞作品展

日時・場所 2月2日(火)~16日(火) 田原市中央図書館
主催 田原市、たはらエコ・ガーデンシティ地域協議会

地球温暖化防止啓発ポスター 最優秀賞作品



中学校の部
岩崎ゆめさん



小学校高学年の部
渡邊啓介くん



小学校低学年の部
岩本泰知くん



交流会



交流会閉会のことば 第10回全国菜の花サミット実行委員会副会長 安田和司



交流会主催者代表あいさつ
第10回全国菜の花サミット実行委員会会長
鈴木和義



交流会歓迎のことば
田原市議会議長 河合照人様



交流会来賓祝辞
愛知県議会議員 鈴木愿様



交流会乾杯 全国組織代表 特定非営利活動法人
菜の花プロジェクトネットワーク代表
藤井絢子



交流会司会
特定非営利活動法人
田原菜の花エコネットワーク



交流会オープニング
渥美太鼓「願成観音太鼓」



交流会会場
伊良湖ガーデンホテルリゾート&スパ



交流会アトラクション
愛知県農村生活アドバイザー
田原支部会



交流会 各県参加者紹介



菜の花畑・渥美半島菜の花まつり会場(特産市)

菜の花畑



菜の花畑・まつり会場

菜の花畑・菜の花まつり会場

渥美半島菜の花まつり会場(特産市)





分科会

分科会1-1 「菜種の生産・搾油事業について」 田原文化会館101会議室

座長 特定非営利活動法人 INE OASA 理事長 保田哲博氏
 オブザーバー 太田油脂株式会社 取締役 本社営業部部長 小森強志氏
 オブザーバー 特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワーク理事長 安田和司氏



分科会1-2 「菜種の生産・搾油事業について」 田原文化会館201会議室

座長 特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワーク副理事長 玉越弘志氏
 オブザーバー・報告 特定非営利活動法人豊田・加茂菜の花プロジェクト会長 梅谷勝利氏
 オブザーバー タキイ種苗株式会社 開発部 小野貴世氏





分科会

分科会2 「バイオディーゼル燃料事業について」 田原文化会館202・203会議室

座 長 東近江市あいとうエコプラザ菜の花館館長 野村正次氏
 オブザーバー 特定非営利活動法人菜の花プロジェクトネットワーク代表 藤井絢子氏
 報 告 特定非営利活動法人あいち菜の花活用推進協議会 理事 中井誠氏





エクスカーショ 農業コース

JAマムポート



従業員の元気なあいさつに出迎えられた。



持ち込まれた菊は画像認識で自動等級選別される。



選別から出荷までロボットによる自動化が進み、まるで大型の工場のような。

平成8年度に国庫補助金で建設された「菊の自動選花梱包施設」。自動選花で、まとめて持ち込まれる菊を一本ずつバラす工程から画像認識による自動等級選別をするほか、出荷に至るまでロボット等の自動化による最新システムが組み込まれた画期的な施設である。従来、農家にとって負担であった選別・出荷作業も、ほ場から直接本施設まで持ち込めば、荷造りまで自動で効率的に行うことができる。

施設園芸農家



電照菊の温室を見学生産農家の生の声を聞くことができた。



白熱電球からLEDにLEDの色により効果が異なる。



電照菊温室の夜景赤色LEDが点灯しているのがわかる。

菊は、日照時間が短くなると花芽を形成し、やがて蕾となり開花するという性質がある。その性質を利用し、花芽が形成される前に人工的に光をあてることにより、花芽の形成と開花時期を遅らせる方法が電照菊である。照明は、白熱電球（100W）が主流であったが、近年省エネと地球温暖化対策の観点から蛍光灯やLED電球を導入する先進的な農家が現れている。LEDは従来の白熱電球に比べて消費電力が約1/10に抑えられる。

サンテパークたはら



担当者から公園全体の説明を受ける。



直売所では地元の新鮮な農畜産物が並んでいる。



体験工房では安心安全かつ新鮮な材料を使ってウイナーなどの手作り体験ができる。

農業をテーマにした楽しさいっぱい体験型テーマパーク。農林漁業体験実習館をはじめ、新鮮な農畜産物の直売所、野菜の遊園地、田原市の新鮮食材を使ったレストラン、小動物園などが整備されている。ちなみに、フランス語でサンテは健康、パルクは公園の意味。正式名称は田原市芦ヶ池農業公園。平成7年に開園し、年間約40万人が訪れる田原市の憩いの施設となっている。



エクスカッション 環境コース

赤羽根ロコパーク



サーフポイント「ロコポイント」が名前の由来。



夏期にはアカウミガメが産卵に訪れる貴重な砂浜が残っている。



高台から海岸を望む。目の前に広がる太平洋はとても壮大である。

赤羽根漁港東側に隣接する緑地で、県の事業で平成5年度から階段護岸、緑地広場、遊歩道、駐車場施設などを整備し、平成18年度に完成した。サーフィンで有名なこの海岸では、毎年、世界大会が開催され、遠く関東圏や関西圏からも多くの若者が訪れる。近くに道の駅あかばねロコステーションがある。

市役所廃食用油燃料化装置



廃食用油が環境にやさしいバイオディーゼル燃料になる。



1日に40ℓのバイオディーゼル燃料を精製できる。



精製後は軽油代替燃料として公用車とトラクターに使用している。

たはらエコガーデンシティ構想の主要施策の一つ「菜の花エコプロジェクト」の一環で平成15年11月に実証施設として市役所に導入された廃食用油燃料化装置。1日に40ℓのバイオディーゼル燃料が精製可能。原料となる廃食用油は市給食センターや近隣の飲食店などから直接持ち込まれ、精製後は軽油代替燃料として公用車3台とトラクターに使用している。

田原リサイクルセンター炭生館



PFI方式によるゴミ処理施設「炭生館」運営は特別目的会社であるグリーンサイトジャパン(株)が行っている。



炭生館長から炭化炉の説明を受ける。炭化炉の中ではごみが蒸し焼きされているのに、においは全くもれてこない。



炭化炉から回収した製品。アルミや鉄などの金属類はリサイクルへ。石などの不燃物は市の最終処分場へ。

平成17年4月に運転を開始したごみ処理施設。処理能力は、1日当たり60トンで流動床式炭化炉方式により家庭からの一般廃棄物(もえるごみ)を炭化処理して、電気炉製鋼所で使用するコークスや保温材の代替品として利用。バイオマス活用優良表彰農林水産大臣賞や愛知環境賞などを受賞している。



閉会セレモニー



分科会報告 分科会1-1
「菜種の生産・搾油事業について」
報告者 特定非営利活動法人
INE OASA理事長 保田哲博氏



分科会報告 分科会1-2
「菜種の生産・搾油事業について」
報告者 特定非営利活動法人 豊田・加茂
菜の花プロジェクト会長 梅谷勝利氏



分科会報告 分科会2
「バイオディーゼル燃料事業について」
報告者 特定非営利活動法人あいち菜の花
活用推進協議会理事 中井誠氏



閉会あいさつ
第10回全国菜の花サミット実行委員会
会長 鈴木和義



全国組織代表あいさつ
特定非営利活動法人菜の花プロジェクト
ネットワーク代表 藤井絢子



お礼のことば
田原市市民環境部長 杉浦拓

